

勉強の見通しを立てよう！

茗溪塾塾長 長谷 誠基

6月に入り、暑さも増しうっとうしい季節になってきました。生徒たちの話を聞くと、今年は学年ごとや、時間と競技を限定するなどして運動会も実施されているようですし、修学旅行に向かう学校も出てきました。少しずつですが普段の様子が戻りつつあるようです。

現在、公立中学校では定期試験が行われていて、塾ではそれに向けた対策授業を行っていますが、やはり新しい教科書の特に英語が難しくなっているのがわかります。学校でも今まで中3でやっていた文法の内容が中2に変更になってしまったため、初めはプリントで移動された内容の学習をやり、5月の後半になってようやく教科書のLESSON1に入ったという学校もありました。単語もかなり難しいものが入っており、どこまでスペルを覚えさせるのか、どれは意味が分かればいいのかということを示していかないと、相当勉強に苦労しそうです。特に中学校1年生は5年生のときが移行期間中で、書く練習が少なかった可能性が高いので、暗記の練習にしっかりと時間を割く必要があるので注意しておきましょう。

塾では、個別面談が行われていて、志望校へ向けての今後の学習や、夏の勉強方針、秋以降の流れなどを相談しています。去年は変則的に行った夏期講習ですが、今年は例年に近い形で行うことができそうです。中3生は夏の総体が7月中旬から下旬に行われ、そこで部活引退となりますので、ここから一気に学習量を増やしていかないといけません。受験生はこの夏が今までの総復習ができるラストチャンスですので、授業はそれが中心となります。また、夏前の模擬試験や学力テストなどで発見された苦手も克服する必要があります。苦手単元は簡単に克服できるものではありませんので、時間を多めに割かなければいけないでしょう。そこで、ここで夏の学習のおおまかな見通しを立てておくと迷わずに進められると思います。特に苦手な教科と単元のどこをどの教材を使って、いつやるのか？これだけでも決めておかないと、いつの間にか夏が終わっていたということにもなりかねません。また、あまり多くをやろうとすると中途半端になり結局何も克服できないままだったという可能性もあります。重要なのはその絞り込みです。先生と相談しながら最低でもこれだけはできるようにしようという部分をはっきりさせておきましょう。

充実した夏を過ごすためにも、事前の準備をして臨みましょう！